

### 図表 3.3.3 特に不足感の強い人材の専攻分野

組織名	専攻分野
研究者	
機関A	ビームの診断、制御、シミュレーションならびに超伝導磁石、高周波
機関B	超伝導関係、真空、軌道解析、パルス電磁石
機関C	サイクロトロン物理
機関D	ビームの診断及び制御、真空、ビームライン工学系及び検出系・信号処理系開発、マーケティング (将来必要となる、超伝導空洞部門、電子銃、加速器理論は皆無)
機関E	工学系
機関F	電気系
機関G	加速器物理、原子核物理、電気工学
機関H	工学系、機器開発ならびに高度化に携わる人材
機関I	計算物理
技術者	
機関C	制御・計測
機関D	電子工学、マイクロ波工学、超伝導工学、ビームライン設計・建設、制御システム、光学素子、検出系・信号処理系の設計、ネットワーク・ソフトウェア設計・支援に関する高度な専門知識を有する人材
機関F	機械系
機関G	理学、計算機制御、粒子計測、高周波電源
機関H	工学系及び機器保守に携わる人材
機関I	計算機科学及び真空工学
技術支援者	
機関A	工学系
機関B	ビームライン技術、利用促進
機関C	生物系
機関D	作業工程管理、制御ソフトウェア開発、システム開発、回路設計、ネットワーク管理、情報伝達システム製作、機械設計
機関E	電子回路技術者
機関F	理学系
機関G	理学系、生物系、化学系、電子工学系
機関H	運転業務に携わる大学学部卒・高専卒レベルの人材
機関I	計算機科学

超伝導、真空工学分野等の不足が顕著

計測・制御系等の不足が顕著

生物系、計算機科学、電子回路分野等の不足が顕著